対象作品／福田隆浩著『明日香さんは負けない』講談社

みんなハッピー

弘前市立城西小学校　小林摩幸

皆さんは、ＳＤＧｓを知っていますか。

ＳＤＧｓを進めると、この世界がよくなっていくと言われています。だから、私はＳＤＧｓが好きです。特に目標10「人と国の不平等をなくそう」が好きです。なので、『明日香さんは負けない』という本を読もうと思いました。

このお話の主人公なみは、いとこの明日香さんに出会っていろいろなことを考えるようになります。明日香さんは車いすに乗っていて、障害のある人がお仕事をするのにちゃんとできるようになるまで、お仕事の内容を教えるジョブコーチをしています。

初めてなみが明日香さんに会った時、明日香さんが車いすに乗っていたので、びっくりしてしまいました。何も言わずに帰ってしまったので、明日香さんにあやまりたくてブルックホールという美術館に行きました。その日は、ルナコ展でした。障害があるルナコさんという人がかいた絵を飾っているのだと、明日香さんから教えてもらいました。明日香さんには、障害がある人が作りだした芸術作品のことを、障害者アートと呼ぶことも教えてもらいました。ここまで読んで私は、障害者アートというものがあると、好きな絵をかいてみんなからほめられてうれしくなり、自分の好きなことができる社会になると思いました。

お昼になったので、明日香さんたちはご飯を食べに行きました。そのお店は障害がある人が働いています。そこでなみは明日香さんから、障害者でもみんな以上に働ける力があること、自分で働いてお金を稼げて自立できるようになると教えてもらいました。私は障害があると働くのは難しいと思っていました。でも、丁寧に教えてもらえばできるようになることがわかりました。みんなが平等に楽しい生活ができるようになればいいなあと思いました。

なみのクラスでドッジボールをする時、車いすに乗っているのあさんに、どんなふうに参加してもらうかを考えていました。だけどなみは、自分たちだけで勝手に決めつけてはい

けないと思って、のあさんに聞きに行きました。なみは、明日香さんだったらこうすると思って行動したと思います。なみは、のあさんがどうしたいかを聞くことが、一番大切だと思ったからだと私は思います。でも、私だったら聞きに行かないで考えてしまうと思います。なぜなら、聞きに行くということが思いつかないからです。なので、この本を読んで私も相手のやりたいことを聞きに行ってあげようと思いました。障害がある人でも好きなことができる、みんなが楽しい生活ができるようになる、人の話を聞くことが大切なことがわかりました。

障害があってもなくても、みんなが幸せにくらせるっていいなあと思いました。